
江戸川コナン誘拐事件

落ちぶれた天使

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

江戸川コナン誘拐事件

【Zコード】

N9033Y

【作者名】

落ちぶれた天使

【あらすじ】

これは江戸川コナン誘拐事件のつづきです。 わかにやけをおよみください。

誘拐（前書き）

歩美「そろそろ帰るわ」

光彦「そうですね。もう5時ですし。」

げんた「じゃあまた学校でな！灰原！」

哀「ええ。」

博士「気をつけてかかるんじゃぞ～」

そういうこと歩美達はあがた邸を出て行った。

歩美「あれ？これコナン君のメガネじゃない？」

光彦「おかしいですね～？なんでこんなところ…・・・つてもしかして、コナン君、なにか事件にまきこまれたんじゃないですか！？」

げんた「まじかよー？」

光彦「とつあえず博士と探偵事務所にいきましょー。」

光彦たちはそれから博士と探偵事務所にいきましょー。
所にやつてきた。

それから事情をじっくりと蘭に説明した。

そのときだつた。

電話がなつた。

「その『君』コナン

コナン」「（ん、コレどこだ・・・？）」

コナンがめをきました。

体が自由に動かない。

どうやら手を柱にしばられて足はロープでしばられて、口はガムテープをされているようだった。

コナン「（あ、俺、誘拐されて・・・へつなさけねえな・・・ハハハ・・・）」

そこに2人の男女がはいつてきた。

男のほうにはっきりと見覚えがある。

明石彰！？

「コナン」「（まさか、おつちやんに復讐するために俺をーー？）」

女「あら、おきたみたいよ」

明石「ああ。じゃあ毛利探偵事務所に電話かけようとすつか。」

女「そうね。それにしてもかわいい坊やだね。ペットにしたいぐら

い。」

明石「子供じゃなくてペットかよ？」

女「だつて、あの子いろいろと使えそつなんだもん」

明石「まあたしかにな。坊主の携帯とつてきてくれねーか？」

女「はいはい」

そういうと女がコナンにさかずいてきた。

コナンは必死に繩をほどいてなわをひっぱつている。

女「かわいそらだから、ガムテープとつてあげるね。」

女はそういうとコナンのガムテープをとつた。

コナン「お姉さん、明石さんの彼氏？」

コナンはお得意の子供スマイルでこいつた。

女「まあそんなどこかしら？安心して？あなたを殺すつもりはないから。まあおうちで帰すことほほできなにけどね」

コナン「ふーん。で？これはおじさんへの復讐と逃亡金めあて？」

女「ええ。坊や、なかなか頭がいいじゃない」

コナン「うん。」

女「ちよつと携帯かしてね」

女はそうこうと「ナンの携帯をとりだした。

女「あれ、二つある。」

「ナン」「ねえお姉さん、このロープ、はずしてくれない?」

「ナンがやつている」とはもちろん完全なる演技だ。

本当は怒りが爆発しそうだった。

女「「じめんね。それはできないわ。今から毛利小五郎に電話するからおとなしくまつてゐるのよ?」

女はそうこうと「ナンの口にふたびガムテープをはった。

—探偵事務所—

P R R R R R R R R R R R R

小五郎が取るうとした電話を哀がせつとつてスピーカーにすると
うけこたえた。

哀「もしもし」

明石「ん?お前はだれだ?」

哀「じゃああなたはだれ?」

明石「その様子からするとあのガキの彼女かなにかか?」

哀「ちがうわ。その人は私が作った薬の実験台つてところね。」

明石「まあいい。お前んとこのガキはあずかった。返してほしければ2時間いなしに5000万、あとで指示するところにもつてこい。」

「

哀「上等よ。だけど、私の実験台をつかえなくしたら今度はあなたを私の薬の実験台にするからたのしみにしておいて?それと、私の実験台の声、きかせてくれるかしら?」

あかし「生意氣ながきだぜ。ほりよ。」

明石がコナンのガムテープをとるとコナンの耳にケータイをおしつけた。

コナン「灰原か?」

哀「あなた無事なの?」

コナン「ああ。まあな。手足はしばられてつけど。それとたのみでえことがあんだけども~今日発売の探偵左門時シリーズの最新刊かつといってくれねーか~つりきれちまつかもしれねえし。」

哀「あいかわらずの推理馬鹿ね。い・や・よ。で、」

小五郎たちはスピーカーからきこえるコナンの声にあきれていた。

「ナニセビシカツルタケハシニ。

哀「あなた、今どういう状況にあるかわかつてゐるの？」

「ナン」「わあってるよ・・・」

哀「じゃあ今どうなの?」

コナン、さあ？窓から海が見える。
たぶん、米花じゅつてムグッ！」

哀一ちよ二と、江戸川君！？江戸川君になにをしたの！？

明石「ちょっと口をふさいただけだよ。いらんことをへらへらと。じゃあ場所はまたれんらくする。」

哀「あちよ、」

電話がきた。

「おれたわ。電話。」

小五郎「そうか……にしてもコナンのやつ、危機感ゼロだな……」

歩美「そうだね・・・」

げんた「まさかあそこで推理小説の注文するとはおもわなかつたぜ・

•
•
L

光彦「ですね・・・」

蘭「ひとりあえず、警察に電話しよー。」

小五郎「わうだなー！」

一九の「ハナソン」

明石「たぐ、余計なことしゃべつやがつて。」

女「ほんと、けつこー頭こいわねーのす。」

コナン「（あー、ゼーむかつく奴等だぜ。とにかく、繩ほどかなく
ちやなんねえな。）」

誘拐（後書き）

心配（前書き）

あああああああああああああああああああああああああああああああああ

心配

「コナン」（あ～どうかにビンかなんかねーかな・・・。）「してもあいつひむかつくなア。何がペシトだよつてんだ・・・。」

女「そろそろ2時間じゃなこ？」

明石「ああ。じゃ、電話でもすつか。」

女「じゃあアタシは移動する準備するわね～もつーやの繩はずしちゃつていいかしらっ。」

明石「ああ。車に縛つておしゃべりな。」

女「りょーかい つけたわいましたあ うふふ」

明石「じゃ、頼んだ。」

女「OK」

そうこうと女はコナンに歩み寄り、柱につながれているコナンの手の縄をほどいて、また後ろでに縛るつとしたがコナンがかなりあばれた。

女「もうここにこじてつばあーーーあばれなこでよーボーザーーー！ー！」

「コナン」（やーだね）

つこに「ナンは男の参戦によつ無理やつ縛られてしまつた。

そのあとスタンガンで氣絶せられてしまつた。

—探偵事務所—

小五郎「まだなのか電話は・・・・・」

めぐれ「金のほうは警視庁で準備してある。」

光彦「でもおどりましたね・・・・・」

げんた「おつ・・・・・」

歩美「コナン君、そう簡単に誘拐されることおもつんだナビ・・・・・」

哀「彼、熱たかかったから。今、熱やっぱこんじやない?とくに倉庫なんかに監禁されていたとしたら・・・・・」

蘭「コナン君・・・・」

心配（後書き）

探偵団バッジに救われる（前書き）

ああああああああああああああああああああああああああああ

探偵団バッジに救われる

「ナンが田をやました。

どうやら今車は信号の渋滞にはまっているらしい。

前の座席には男女が座つていて楽しそうにはなしていない。

「ナンはむりやりズボンの裏のポケットにてをいれで、探偵団バッヂの通話ボタンをONにした。

「ナン」（少し、でも手がかりをつたえなくぢやね・・・）

—そのころ探偵事務所—

歩美「さつきの電話によると、4時に、東京駅のマイクロツッカーにお金をいれればいいんだよね？」

光彦「そうすればナン君はかえつてくれるはずですー。」

げんた「おれ、小説かってきてやるうかな」

歩美「そりだねー。そりすればナン君かえつてきたときよのここんでくれるよねー。」

光彦「ですねー！」

哀「まつて、江戸川君のバッヂ、ONになつてるわー。でも話しかけ

てこなってことばあつちの話をきかせてるんじゃない?だからみんな、しづかにして

小五郎「なに!?」

めぐれ「テレビをナセーーーー！」

バツチ『ガガ・・・あの子・・・ど・・・すんの?・・・
ア・・・メリカにつれ・・・かえる・・・そ・・・うお・・・き
た・・・みたいよ・・・あの・・・子・・・お・・・いぼう・・・ず・
・・・な・・・に?・・・しば・・・ら・・・くじ・・・つと・・・
し・・・てろ・・・よ?・・・は・・・あ・・・い・・・き
ゆ・・・ぎゅ・・・ぐい・・・ぎ・・・
』

歩美「ナナノ君、繩、迷子になってしまったのかなあ・・・?」

「ええ、そうみたいね。あ、」

バツチ『お・・・・・いな・・・にして・・・る！？・・・こ・
・・のが・・・・き・・・・！？・・・み・・・てわか・・・らな
い・・・・？・・・なわをホ・・・・ビニ・・・うと・・・おも・
・つて・・・』

哀「繩をほどいてしたのがみつかったみたい。今は車の中みた
一九四〇年

小五郎「 外国までつれてかれたらコナンはもう一生の口ひどじちになつちまうぞ！？」

めぐれ「へへへ・・・・・」

探偵団バッジに救われる（後書き）

ああああああああああああああああああああああ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9033y/>

江戸川コナン誘拐事件

2011年11月30日16時46分発行